二中の木

学校報
第12号
H28/12/06

能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

～冬を迎えて～
春の憧れ、冬の覚悟

平成28年度は、四月七日（木）に新入生90名を迎えての入学式からスタートしたのでした。長く寒い冬を通り抜け、新たな生活への心弾む思いは水仙、蓮華、菜の花、桜と穏やかに匂い立つ花々が咲く春と重なります。

夏と秋を鮮やかに駆け抜け、八ヶ月が過ぎました。友との協力や励まし合い、時には競い合いや意地の張り合いなど、生徒同士のかかわり合いの中でしか生まれない喜怒哀楽が、きっと皆さんの心の成長に、そして未来のたくましい姿に大きく役立つはずです。

そして、冬がやってきました。

「冬が来た」
～詩集『道程』より～
高村光太郎

きっぱりと冬が来た
八つ手の白い花も消え
公孫樹（いてふ・いちょう）
の木も箒（ほうき）になった　きりきりともみ込むような冬が来た　人にいやがられる冬　草木に背かれ、虫類に逃げられる冬が来た

冬よ
僕に来い、僕に来い、僕は
冬の力、冬は僕の餌食だ

しみ透れ　つきぬけ
・・・・
（以下略）

1883～1956
東京都生まれ

さあ！先へ進みましょう

冬が来た」は、決して忘れることのできない一編の詩です。春や夏のように部活動への思いが激しく燃え上がることもなく、なんとなく静かで冷たい冬を迎える時期。尻すぼみにも思える中学校二年生の生活を送る私達に担任の先生が、国語の時間に読んで聞かせてくれた詩でした。担任の先生は、智田稔先生といいます。後で知ったことですが、先生は、能代第二中学校の卒業生で第四代生徒会長でもありました。その先生が言いたかったことが、この歳になって少しわかってきたような気がします。

体育祭、春夏の総体、二中祭、二中若と大きな行事を過ごして来ました。これらは仲間との絆、地域の一員としての自覚、成し遂げることで得られる満足感など、多くの貴重なことを皆さんに実際に感じることができるものとして味わわせてくれました。得られたものが大きかっただけに、再び挑むための次の一歩が踏み出せていない人もいるのでは？と心配しています。春、夏、秋の慌ただしい時間の過ごし方に比べれば、冬を迎える今は少し落ち着いて自分のことを見つめ返すことができそうな気がします。

冬が訪れたこの時期に、もう一度自分が目指していたものは何だったのかを確認しましょう。やがて来る春に、さらに大きな憧れと志を抱いて臨めるように。

「冬からの問いかけ」
○春に立てた目標の行方
・達成できましたか？
・挑み続けていますか？

確認！二中生としての志

◇めざす生徒像◇

○自　主
自らを鍛え、
志を打ち立てようとする生徒

○不　屈
課題に気付き、
乗り越えようとする生徒

○友　愛
仲間とのかかわりに幸いを感じ
役に立ちたいと願う生徒

めざす生徒像・校訓」は、二中生にとって共通の志であり、どんな行動をするべきかを指し示す道案内の役割をするものです。「標」しるべとも言います。

自分のわがままを抑えて、他人の気持ちになって考え行動する友愛の気持ちに揺らぎはないかについて、次号で考えてみたいと思います。【終】